

妙安寺だより 299号

身延山参拝一人旅

今回身延山参拝を一人で行こうと思い立ち、4月に実行いたしました。

本来は、3月の桜の時期と思っておりましたが、桜見物で人が多いし、5月は、身延山で五重の塔の落慶式で参拝者が多いだろうと想像し、4月21日から24日まで、一人で杖を突いて行ってまいりました。

21日、博多駅より新幹線「のぞみ」で名古屋まで、さらに名古屋からは新幹線「こだま」に乗り換え静岡へ、静岡からは特急「ふじかわ」にて身延駅まで、乗り継ぎを合わせ7時間の旅。途中、大阪より雨模様で名古屋過ぎると本降りになり、身延山は雨で、武井坊出店のとうよう軒に迎えを頼みました。

翌22日は、快晴。午前9時に本山の諸堂・再建された五重塔・身延山大学・ロープウェイにて奥の院・田畑門・御座石山門・菩提梯へとゆったりと参拝することが出来ました。

山での福岡県法要には、企画はしたけれども参加で井坊」でも、2日間、他の宿泊客もなく、本当に自長く歩いたせいか、夜中になって腰から足先にかけて

静岡に出て、静岡から東京へのコース。途中、平塚になった平塚のお寺に挨拶に出向きました。

号の学生で、住職の話では、卒業後にお寺に立ち寄

この日は、東京まで出てホテルにて宿泊。

24日、帰りの飛行機の搭乗時間まで、東京・三田のお寺に。ここのお寺の住職夫妻は、元身延山武井坊の住職で、私が3年間の学生生活（身延山短期大学）でお世話になった方で、東京に出ると必ず立ち寄って挨拶に行くお寺です。

ともかくにも無事に、一人で3日4泊の旅行が出来たということは、大きな収穫でしたが、疲れのためか2、3日は足腰が痛みました。

（*写真説明 左・130年ぶりに再建された五重塔 右・奥の院、思親閣より見た富士山）

お知らせ

裏(桜のある土地)の借地を借りていた方の家が立ち退き、家屋の解体と土地の整備・塀の補修が、このたび完成しました。参拝者用の駐車場(5、6台)として整備いたしました。白線はありませんのでお互い協力して駐車できるようにお願いいたします。ただし、道幅が狭いので、利用できる車は、普通自動車・軽自動車に限ります。境内地(本堂前)に駐車も出来ない場合はご利用下さい。また、駐車場より、境内地(墓地)に入れますが、お帰りの際は、必ず扉を閉めてお帰りになるようお願いいたします。

笑の泉

◎忍耐のこころ

教会の牧師が、あるお寺の住職に訪ねた。「聖書には『誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい』という言葉がありますが、仏教にはそれに該当する教えがありますか」

住職は「大乘仏教には、六波羅蜜の実践徳目があり、その中の一つに忍耐波羅蜜という徳目があります。これは、あらゆる侮辱や迫害に耐え忍び、怒りの心を起こさないことで、これを実践することにより、外からの障害から身を護ることができるので、忍耐の衣、忍耐の鎧とも言われます」と応えた。

そして、こう付け加えるのを忘れなかった。

「ところで牧師さん、さっきから、あなたが知らずに私の足を踏んでいるのを、私はガマンしていますが、これも忍耐行の一つです」



